

南仏治安情報（6月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）ヴァール県ラ・ガルドにおける、聖戦リクルーターの検挙

2日、ヴァール県の警察がジハーディストのリクルート活動をしていた容疑で19歳の男を逮捕した。この男の他にも4名が逮捕されているが、本件が5月24日にユダヤ博物館でテロ事件を起こし逮捕された男と関連があるか否かについては不明である。

（2）マルセイユにおける、ユダヤ人関連施設の警戒

ユダヤ博物館でのテロ事件発生以降、警察はマルセイユにあるユダヤ教礼拝堂及びユダヤ人学校90カ所を保護監視下に置くこととした。今回の監視措置は、マルセイユに7万人ものユダヤ人が居住しており、また今回の犯人がマルセイユで逮捕されたことも影響しているとみられる。

（3）コルシカ島バスチア発生、憲兵隊宿舎銃撃事件

12日未明、バイクに乗った男達が憲兵隊の宿舎に向かって銃を乱射した。負傷者は出なかったが、宿舎内には20箇所の弾痕が残されていた。この事件後、犯行に使用されたとみられるオートバイが放火された状態で発見された。なお、事件発生日はコルシカを訪れた内相がアジャクシオ治安関係者と会合を開く予定となっていた。

（4）ガール県・ヴォークリューズ県における、テロ関連容疑者の検挙

内務省の発表によると、ガール県とヴォークリューズ県内で17日朝、男2名女2名の計4名の仏人がテロ行為準備容疑で逮捕されたとのことであった。20歳から32歳までの被疑者のうち男2名はシリア滞在経験があるとのこと、帰仏後にテロ行為を行う疑いが持たれたものとみられる。また、本件に関連し、警察はニーム周辺に存在したジハーディストのリクルート組織の上層部3名中2名を逮捕したと発表した。この組織のネットワークにより本年に入って約20名の若者がシリアに送り込まれたという。

（5）コルシカ島における、FLNC初の武装放棄声明

25日、コルシカ民族解放戦線（FLNC）は、武装闘争の放棄及び地下活動からの漸進的脱却を行う旨の声明を発表した。同時に、「今後FLNCがコルシカ及び仏国内での軍事行動の責任者となることはない」旨述べた。同組織はこれまで停戦表明を出したことはあるが、今回のように武装闘争路線の放棄を謳ったのは初めてのこと。

（6）コルシカ島コルス・デュ・シュッド県内発生、別荘爆破事件

29日、ボニファシオで仏本土人所有の別荘が爆破された。犯行声明は出ていない。爆破された別荘は改修中で被害は屋内のみの軽微なものであ

った。

● 殺人（邦人被害なし）

（１）アヴィニョン発生、銃乱射による殺人事件

１日未明（正確には５月３１日深夜）、ムーラン・ノートルダム通りにあるスナックで銃撃事件が発生した。本件は車に乗っていた男２名が１週間前に開店したスナックに押し入り店内にいた男女５名に対し銃を乱射したもので、被害者の一人２１歳男性は腿を撃たれ重傷を負い、搬送先の病院で亡くなった。

（２）BDR県 Fuveau 発生、殺人未遂事件

６日未明、自宅近くの路上で３０代の男性とその兄弟の２名が何者かの銃撃を受けて病院へ搬送された。被害者達は事件当時住宅街で車に乗っていたところ襲撃を受けたもの。

（３）マルセイユ発生、薬物絡みとみられる殺人未遂事件

９日未明、３区 Plombier 付近の路上で車に乗っていた男２名が何者かに自動小銃で撃たれた。被害者２名は麻薬密売人として警察にマークされており、今回の事件も薬物絡みの対立抗争とみられている。

（４）BDR県ペンヌ・ミラボー発生、自宅内での女性殺人事件

１０日昼過ぎ、５８歳の女性が自宅内で死亡しているのを発見された。女性はナイフで胸を刺されており、警察は殺人事件として捜査を始めている。

（５）アルプ・ド・オート・プロヴァンス県ディーニュ・レ・バン発生、殺人事件

１６日夜、３０歳の男性が７名以上の男達に囲まれ１０カ所以上をナイフで刺されて殺害される事件が発生した。被害者は男達に奪われた自分の携帯電話を取り返そうとしたところを返り討ちにされたもの。被害者と犯人らは近所に住んでいた。

（６）マルセイユ発生、レストランオーナー殺人事件

６月下旬、１０区ポール・クロードル通り上で７５歳男性の遺体が発見された。遺体は自宅近くの路上駐車中の車の間に横たわっており、発見当初は事件か事故か不明であったが、検視の結果遺体の頭蓋骨が陥没し、数カ所骨折していることが判明し、警察は本件を殺人事件とみて捜査を開始した。被害者は１区旧港エリアでレストランを営んでおり、本件は仕事を終え帰宅した際に発生したものとみられている。

● 強盗（邦人被害なし）

(1) BDR県ペンヌ・ミラボー発生・マルセイユ検挙の強盗事件

19日午前中、商業施設プラン・ド・カンパーニュ内の衣料品店に強盗4名が押し入り現金を奪って車で逃走した。しかし警察がすぐに追跡を開始し、マルセイユの商業施設テラス・ド・ポール付近で車を捨てた犯人らが警察に向け発砲したが、その場で逮捕された。なおこの発砲による怪我人は出なかった。

(2) ガルダンヌ発生、強盗・逮捕監禁事件

17日午前中、現金自動払出機内に現金を補充するため男性が作業をしていたところ、回転灯を付けた車に乗った一見警官風の男3名がやって来て、油断した男性を銃で脅し、現金を奪い取った。犯人らはさらに同男性を自分達の車に乗せて現場から移動し、離れた場所で男性を降ろした後逃走した。後刻、本件犯行に使用した車両が燃やされた状態で発見された。

(3) マルセイユ発生、パン屋を狙った強盗事件（即時検挙）

20日夜、13区ダニエル・カサノヴァ通りにあるパン屋に武装した若者3名が押し入り、売上金を奪って逃走した。だが消防隊の車両が犯人らを発見し、銃口を向けられても怯むことなく追跡した結果、犯人のうち1名を逮捕し奪われた現金を取り戻すことに成功した。

● 誘拐・立て籠もり

(1) アヴィニョン発生、逮捕監禁・傷害事件

16日朝方、アヴィニョンで5人の男（うち4人がアヴィニョン在住）が逮捕監禁及び傷害の容疑で逮捕された。本件は、5月31日深夜にアヴィニョンで発生したスナックでの銃撃事件（上記「殺人（1）」）に対する報復行為で、前回事件の被害者らが銃撃者を特定したものの同人を見つけられなかったことから、その兄弟を電話で呼び出し捕まえて暴行を加えたもの。警察は今回の逮捕監禁・傷害事件だけでなく、前回の銃撃戦についても全容を解明すべく捜査を続けている。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、ビーチでの集団傷害事件

祝日の9日夕方、8区の海水浴場で若者2グループの喧嘩が始まり、警察・消防隊が出動して喧嘩を鎮圧するため催涙ガスを使用するまでの騒ぎとなった。事件当時、現場には大勢の海水浴客がいた。

(2) マルセイユ発生、泥酔客らによる暴行・傷害事件

12日未明、1区旧港エリアのバーで酒に酔った男達が同店前で喧嘩を始め、複数名による殴り合いとなった。最終的に当事者の1名が相手方に

ナイフで腿を刺され病院に搬送された。

(3) マルセイユ発生、交際トラブルに端を発した傷害事件

23日未明、8区エスカール・ボレリーで19歳の少年が頬をナイフで切りつけられ病院へ搬送された。犯人は被害者の元交際相手の兄弟であることから、男女交際関係のトラブルが原因とみられている。

(4) BDR県ペルテュイ発生、重傷傷害事件

30日午後、ロータリー内に停車していた車の中から血まみれの男性が発見された。男性はナイフで胸部や腕を刺されており、間もなくヘリでマルセイユの病院まで緊急搬送された。犯人については、「バイクに乗った男」との目撃情報が寄せられたのみである。

● 薬物関連

(1) マルセイユにおける、連続的な薬物取締りの実施

10日早朝、麻薬取締り当局が15区のシテ・ド・ラ・ヴィストにあるアパート複数数の居室に対する捜索を行い、大麻樹脂16.4kg、現金15,000ユーロと自動小銃を発見・押収した。さらに現場にいた4名の「梱包係」を逮捕した。これに続き、15区バッサンのアパートに対する捜索を行い、大麻4.3kg、現金6,300ユーロを押収した。さらに、14区シテ・デュ・メルのアパートからはコカイン2kg(末端価格13万ユーロ相当)を押収した。今回の当局の捜索差押えは、数週間に渡る内偵捜査の結果実施された。

● その他特異事件（邦人被害なし）

(1) アヴィニョン発生、車両放火事件

1日未明、カルティエ・シュッドで路上に駐車してあった自動車9台が燃やされる事件が発生した。この事件発生を受け、警察は機動隊70名体制で周辺のパトロールを強化することとした。

(2) ヴイトロール発生、侵入窃盗事件（被疑者の検挙）

3日にLiourat地区で発生した空き巣事件につき、警察は16歳の少年を逮捕した。取り調べに対しこの少年は、同地区で発生した他4件の空き巣にも関与した旨ほのめかしている。

(3) マルセイユに関する報道傾向について

この度、マルセイユがパリを除きフランス国内で最も頻繁にテレビで報道された都市であった(2009~2013年)旨が報じられた。報道で取り上げられた内容の内訳は、対立抗争に絡む重要事件が半分近くを占める結果となった。報道機関にとってマルセイユは3面記事の宝庫と看做されているが、ゴードン市長はこれを「マルセイユ叩き」と批判した。一方、犯罪専

門家はマルセイユでの犯罪発生状況を「同規模都市と同程度」と分析しており、むしろ市民の不安は公共物破壊やモラルの欠如にあるのではないかと分析している。

(4) BDR県・ヴァール県における窃盗団アジトの搜索

14日朝方、警察はBDR県及びヴァール県内にある窃盗団のアジトを搜索し、20余名を連行し、うち12名を逮捕勾留した。今回のオペレーションは、同地域の侵入窃盗組織を壊滅すべく警察が数週間に渡って内偵捜査をしていた結果もたらされたものであった。

(5) アヴィニョン発生、侵入窃盗事件とその顛末

20日未明、アヴィニョン郊外にある「キャッシュ・コンバーター」店舗内に閉じ込められた男性から救援要請が入り、消防隊が店舗入口のシャッターをこじ開け男性を解放した。しかしこの男性は泥棒で、屋根から同店内に侵入したが外に出られなくなっていたものだった。後に警察が本件を把握したが、既に男の行方は分からなくなっていた。

(6) ロシア海軍駆逐艦の停留

23日以降、ロシア海軍の対潜駆逐艦「アドミラル・レフチェンコ」と情報収集艦「リマン」が南仏沖の地中海公海上で停留・航行を行っているが、付近にはトゥーロンの軍港やイストルの空軍基地があることから、仏海軍はこれを「不断の警戒対象」としている。また、今回の露軍の行動は、仏海軍がロシア、ウクライナ近郊へ状況把握のため戦艦を送り込んだことを受けての対抗措置ともみられている。

(7) モンペリエ近郊発生、盗品譲り受け事件（被疑者らの検挙）

30日、モンペリエ近郊にあるロマ人キャンプ4カ所に銅などの金属を回収しに来ていたスペイン人3名が検挙された。これらの金属はロマ人が銅線等を盗んできたものとみられ、その情を知りながら譲り受けたスペイン人3名はこれらをスペイン国境で売却しようとしていたとみられる。トラック10台以上で12回程度金属を運んでいた模様で、譲受量（盗難量）が膨大なものであったことが窺える。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。